

健康フラッシュ 大学生になろう！

後期が始まりました。キャンパスに戻ってきていますか。大学に出てこれなく時期のピークが、夏休み明けです。入学以来頑張って前期を終えたものの、そこで息切れがして、後期初め今日だけ休もうと思っているうちにアツという間に学年末試験を迎え、結果は…。新年度、再スタートと頑張るものの、同様に2年目が過ぎ、そしてやっと相談室を訪れる人は案外多いのです。背景はさまざまですが、入学期の課題でつまづいている場合もあります。

エピソード1: 高校は厳しい部活の練習に耐え、一体感と充実感があった。大学でも仲間ができたが、最近はそれぞれが忙しく、一体感が持てない、仲間さえいえれば楽しく過ごせるのに…

エピソード2: 大学では専門の勉強をし、資格を取って就職に備えたかったが、どのくらい勉強すればいいのかが目安がない。保証があれば頑張れるのに。

エピソード3: なんとなく大学に入ったが、講義に興味がない、やって何になるのか意味が感じられなくて。

大学生になったら、それまでの生活や環境、対人関係に別れを告げ、新たな環境に慣れ、自ら人との関係を築かなければなりません。そして内発的な修学意欲が問われます。それらをクリアしていく過程で自身の在り方を考え始め、本当に大学生らしくなっていくのかもしれませんが、今、これを読んでいるあなたはキャンパスにいるのでしょうか。もし後期にまだ顔を見ていない友達がいたら、一声かけてみてください。相談室も利用して損はありません。(学生相談室)

【ニュース専修9月号5面】

学部発信 一経営学部一 プレゼミで学ぶ楽しさを



▲「学習スキル」が身につくプレゼミナール

クラスメイトとの交流進む

「普段よく顔を合わせるクラスメイトと社会問題を通じて交流ができた。留学生が2人もいて中国の文化について知識が身についた。同じ年齢の学生なのに政治にとっても詳しい学生、意見のしっかりした学生、志の大きい学生がいて感心した。いろいろ自分の将来や夢を考えさせられる授業だった。自分の身の辺の友達だけじゃ広がらない世界に出会えたように思う」、「今まで全くと

いっていいほど本を読まなかったが、プレゼミを受講したおかげで、たくさん本を読むようになりました。班ごとに分かれて、記事を読んで意見を言い合ったのが良かった。自分の意見を日頃あまり言わなかったので、意見を言える機会があつてよかった。社説や新聞記事を授業中によく読んだので、自分で新聞を読むようになった」。

この2人の感想は、前期最後の授業で、受講生22名に対してアンケートを書いてもらったとき「プレゼミを受講してよかった点」という問いに対して答えてくれたものです。

「よかった点」という設問ですから、評価が高いのは当然ですが、その次に書いてもらった「プレゼミへの注文」への回答が「いつも意見を言う人が決まっていたのでみんなが積極的に話し合えるといい。今、疑問に思っていることを話題に出そう」といったように履修生への注文であったり、「楽しかったので特になし」とか「前期だけというのは短いです」といった感想になっていたのも、履修生にはおおむね好評だったと思われる。

5年前からカリキュラム化

経営学部のこのプレゼミナールは、5年前からカリキュラム化されたもので「問題意識の持ち方、本の読み方、レポートの書き方、意見のまとめ方、議論の仕方、発表の仕方など、3,4年次における『ゼミナール』で必要な学習スキルを少人数の授業において学ぶ」もので、「情報リテラシー」という科目とともに「大学で学ぶために必要なスキル」を身につけることを目的としています(本紙第386号より)。最初の3年間は経営学部の専門科目の教員だけが担当しましたが、4年目からは教養科目や教職科目の教員も担当するようになり、履修者数も増えてきています。学部をあげて大学での初期教育に力を注いでいるのです。

「受けて損はありません！むしろ積極的に受けよう！自分のいいことを言える(書ける)のは、こういう討論の時間しかないと思います。言える、書ける能力が向上します」という「来年度受講する後輩へのメッセージ」という設問への回答をばねにして一層プレゼミナールを経営学部は充実させていきます。(嶺井正也)

【ニュース専修9月号5面】